

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム あおやぎ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600112		
法人名	医療法人社団 敬和会		
事業所名	グループホーム あおやぎ		
所在地	〒024-0031 岩手県北上市青柳町2丁目6-9		
自己評価作成日	令和2年11月30日	評価結果市町村受理日	令和3年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

訪問診療と訪問看護ステーションと連携を図り、入居者様の体調の変化に迅速に対応している。また重度化や終末期ケアにも対応している。
 地域行事への参加や、施設でのイベントに地域の方にも来て頂き交流の場を大切にしている。
 やりたい事、できる事が実現できるよう入居者様のペースに合わせながら対応を行っている。
 自立支援、認知症ケアの取り組みとし公文学習療法を導入している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念と事業所の理念をもとに、職員が目指す支援の姿勢を利用者が「生き活きと生きるための支援」として取り組みを行っており、更に職員の個人目標をホーム内に掲示して業務に当たっており、質の高さを感じられる。コロナ禍で運営推進会議が書面開催となっている中でも、管理者は委員宅を訪問して会議資料を手渡しする等の工夫にも熱意を感じられる。また、医療法人としての利点を活かして、24時間対応の訪問診療や訪問看護ステーションの適切なサービスを受けられ、さらに看取りの取り組みを進めており、医療との連携体制が十分に取られている。コロナ禍の中で外出機会が大きく減少しているが、職員はホーム内での行事の充実にも注力し、模擬ずし店の開催などで利用者の楽しみを演出する等の努力を重ねている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年12月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あおやぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は職員全員見える所に掲示し共有できている。また、職員会議等で地域密着型サービスについて定期的に確認できるよう努めている。	10年ほど前に職員も参加して作成した理念を玄関等に掲示し、職員の意識化を図っているほか、年度毎に具体的な運営目標を作成して取り組んでいる。さらに、各職員ごとに取り組む目標を定め、顔写真入りでホールに掲示し、意欲を持って業務を進めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に参加し事業所との繋がりを大切にしている。運営推進会議にて事業所の近況報告を行っている。	自治会に加入し、回覧板が回り広報も届けられている。普段であれば、地域の運動会に参加したり、お祭りの子ども神輿が巡ってきたり、事業所のイベントにも地域の方々が参加しているが、今年はコロナ禍のため中止となっている。それでも、近所の住民の方に草刈りを手伝っていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて資料を活用し事業所の様子を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いたご意見を職員間共有し運営に活かせるよう努めている。	委員は地域の区長や民生委員、行政担当者、家族代表等でバランスよく構成されている。今年はコロナ禍のため集合開催できず、止む無く書面開催としているが、管理者が開催通知を手渡しで配布し、顔の見える関係を保っている。あまり意見等が出されない状況にあるため、工夫が必要としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者、ケアマネージャーを中心に連絡を密に取り事業所実情等伝えながら協力関係が築けるよう努めている。	今年度は市の担当者が運営推進会議委員となっており、事業所の運営状況等の情報を定期的に提供できている。要介護認定申請の際には、直接市役所に出向いて指導や助言を得ており、また行政が主催する研修会にも参加しており、連携が保たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を開催し、身体拘束について確認をしている。利用者様の状態変化に合わせた話し合いの際には、身体拘束にならないよう配慮したカンファレンスを実施している。	身体拘束適正化に関する指針を作成し、定期的に委員会と研修会を開催している。また、スピーチロックや離床センサー、眠りスキャンなどの使用についても、職員会議、カンファレンスの場などで検討し、身体拘束にならないよう配慮している。	委員会の開催内容については、簡易でも良いので会議録を作成・保管することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に事実状況のチェックを行い、勉強会の開催を行っている。その際資料も活用しいつでも確認できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内勉強会や外部研修報告を行っている。また、入居毎のカンファレンスにおいて話し合いの場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者またはケアマネージャーにより、インホームドコンセントの実施がなされている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が介護現場も兼任している為、情報共有ができています。必要時カンファレンスを開催し対応に努めている。	2ヵ月毎に、写真と生活状況をお知らせする“お便り”を家族に送付している。今は面会制限が続いているが、電話で又は玄関先に来られた際にお話を伺っている。家族からは床屋利用や身だしなみに関する要望もあり対応している。言葉で表現できる利用者は少ないが、表情や仕草から読みとるように心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が介護現場も兼任の為、必要時速やかに相談できる環境になっている。	日常業務の中で、職員がお互いに意見を話せる環境作りに努めており、管理者にはショートメールやラインでも意見が届けられている。パソコンの購入や特殊浴槽の部品交換など、介護に必要な物品に関する提案が多く、出来るだけ具体化している。	

事業所名 : グループホーム あおやぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に合わせた職務や勤務形態を調整し、働きやすい環境ができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍において外部研修は制限があるもの、法人内研修や初任者研修等で人材の育成を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や勉強会等管理者、職員参加し交流を図っている。現在感染症流行に伴い計画されていた研修等中止になったものが多いが、リモートでの研修など可能なものには積極的に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様やご本人様に来所して頂き、実際の様子や雰囲気を感じて頂くようにしている。また、会話の中から気持ちや思いを引き出せるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様の生活歴や心身状況を聞き取り、ご家族様の困り事や不安な事、要望等を気兼ねなく話すことが出来る雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、ニーズをしっかりと見極め適切な対応が出来る様に務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に楽しみ助け合いながら生活している事を意識しながら、支え合うもの同士の関係作りに努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あおやぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際や、電話等で生活の状況や相談等を行い、共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との面会の機会を設けている。電話やリモートでの面会も行い関係が途切れないよう努めている。	利用者の重度化傾向のため、友人等の来訪はなく、加えてコロナ禍による面会制限のため、家族の面会もできない状況にある。リモート面会を利用する家族もいる。また、月1回来訪する美容師が馴染みとなっている。個別のドライブで実家付近に出かけたりもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と家事やレク等の活動を通して交流できるようにしている。また、会話の橋渡しや、席の配慮をし利用者様同士の関わりを大事にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様のご家族様より相談の連絡が数回あり相談をお受けしている。永眠し契約終了になったご家族様からメールや電話、来訪頂くなど関係性が継続している。毎年年賀状やお花を頂くなどの関係性が続いているご家族様もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中でコミュニケーションを大切にし思いを汲み取るようにし、知りえた情報は申し送りを活用し職員間での情報共有に努めている。入居の際などご家族様にも以前のご様子を確認しカンファレンスにて対応を検討している。	言葉で表現できる利用者は少ないが、仕草や表情から読み取った情報を24時間シートに記入し、職員間で共有して支援に活かしている。自分の思いを話せる方からは想いを聴き、出来ない方にはシートを利用しながら想いの把握に努めている。利用者の要望は食べ物に関するものが多いため、「模擬すし店」で職員が寿司を提供したりして楽しんでいただいている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前のサービス利用経過については、関係者より情報提供して頂き職員間で共有している。ご本人様または、ご家族様の面会の際に以前の暮らしをお聞きしている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム あおやぎ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子については記録し情報共有している。24時間シートを活用し、一日の過ごしかたや支援が必要なことの把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員により定期的に支援をしている状況を評価しカンファレンスを実施し、ケアプランの内容について検討を行っている。ご家族様からは入居時の他、来所持に意向確認やご意見を伺うように努めている。	計画作成担当者が、生活歴や家族の話なども参考に、利用者の状態に応じたプランを作成し、担当職員がモニタリングを行い、職員カンファレンスで検討のうえ介護計画を決定している。プランの見直しは、モニタリング結果をもとに、6か月毎に行っている方が多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態については書面の他、タブレットで記録に残し職員間で共有している。定期的、随時行うカンファレンスの際に参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や行事等の相談や調整等をご家族様とご本人様と相談をしながら柔軟な対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問診療、訪問看護等と相談や報告等を行っている。地域の話題になる写真や情報を生活の中で伝えるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医ご利用の方は、病院、ご家族様、利用者様と情報共有し適切な医療を受けられるよう努めている。また、受診が困難な方には訪問診療で定期的な医療を受けられるよう努めている。	入居前からのかかりつけ医の継続を基本としているが、現状では6人の利用者が法人内のクリニックによる月2回の訪問診療を受診している。他の3人は市内のクリニックを継続受診している。看護業務についても、法人内の訪問看護ステーションの看護師が週1回来訪しており、医療との連携体制が十分に取られている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あおやぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護にて相談、報告できるようにしている。医師への連携もスムーズに行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	訪問診療の医師へ相談ができる状況になっている。かかりつけ医の方は相談できる関係性をご家族含め行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアマネージャーを中心に利用者様、ご家族様に聞き取りを行い、その後職員とカンファレンスにて情報共有している。かかりつけ医や訪問診療等と方針について情報共有している。	重度化や終末期の対応については、入居時に説明しており、多くの方が看取りを希望されている。このため、法人内のクリニックの医師の協力のもと、看取りの取り組みを重ね、昨年2人、今年1人の看取りを行った。職員の研修も進めており、たん吸引はほぼ全員が研修済となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時におけるマニュアルを作成し、全職員が対応できるよう定期的に訓練と会議を設け職員間で確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し防災について学ぶ機会を設けている。消防要請や相談等行い協力体制を築いている。	年2回避難訓練を行っているが、ビルの2階にあるため、階段での避難が大きな課題と認識し、全職員が階段を使用するの車いす利用者の避難の仕方を訓練するなど、実践的なものとなっている。近所に2軒の協力家庭があり夜間避難等では頼りにしている。洪水時は3階への避難が適当と判断し、市の了解を得ている。備蓄品は3日分を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様との関係を構築できるよう、日頃からコミュニケーションを図り一人ひとりの尊重とプライバシーを守るよう努めている。	入浴時やトイレ誘導時には、周囲に聞こえないように利用者の耳元で話すよう配慮している。失禁の際には、さりげない処理と優しい声掛けを行い尊厳の確保に配慮している。また、入室時のドアノックや着替え時のドア閉め等のプライバシー確保に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が発した言葉や行動を職員間で共有し思いを汲み取るよう努めている。また、生活の中で選択肢を設け自己決定できるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に合わせた支援を行っている。自主的に歩行訓練をされている方には環境整備をし安全に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時等身だしなみに気を配っている。衣類をご自身に選んでもらうなども行っている。行事等でおしゃれを楽しむ機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に食事の準備を一緒に行っている。旬の物や好みの物を日常の会話で話題として挙げ楽しみに繋げている。月に一度の手作り昼食も行っている。	献立は朝が夜勤者、昼と夜は調理担当者が作成しており、利用者の好みを聞き取り、献立に活かしている。月1回は手作り昼食として希望メニューを提供しており、お寿司の時には、職員も寿司職人の衣装となるなど、楽しみを演出している。利用者は皮むきや盛り付けの手伝いも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせた摂取量を医師、訪問看護と連携を取り設定し支援している。摂取量が確保できない状況の際は医師へ相談し栄養剤等処方し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。磨き残しが無いよう必要時介入し、義歯使用の方には洗淨剤を使用するなど清潔を保てるようにしている。また口腔内の状態に合わせた器具を活用している。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム あおやぎ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態変化や検討が必要の際にはその都度職員と協議をしている。自立に向け定期的なカンファレンスを行いおむつやパット等の使用調整を行っている。	排泄チェック表をもとに、パターンをタブレットに入力して職員間で共有している。布パンツ使用で自立が1人、オムツ使用が2人、他はリハビリパンツの使用となっている。寝たきりの方でも座って排泄できるよう、2人での介助が必要な方もおり、支援に注力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に便秘気味の方には身体を動かす機会を設け、水分補給と腹部マッサージを行いながら便秘解消を目標に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入りたいタイミングや時間を確認し入浴調整を行っている。入浴の気分でない時は日程を変更し気分に合わせて対応も行っている。	週2回以上の入浴を基本とし、一般浴槽使用が6人、特殊浴槽使用が1人、シャワー浴が2人となっている。シャンプーは家族や利用者の希望により個人毎となっている。職員と1対1となる時間であり、会話が弾む方もあり、ストレス発散やコミュニケーションの場ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人での過ごす空間や、休息の時間帯など職員間で把握し場所の確保や時間の調整を行っている。カーテンを活用しゆっくり休めるようプライバシーにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方の際に副作用について職員間で情報共有し様子観察をしている。薬が変更になった場合は特に注意をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや出来ることを把握し生活の中や活動の際に実施するようにしている。出来ることから喜びに繋がっていることもあり継続するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により制限がある状況だがドライブ等行い外気浴や敷地内の庭にて歌唱や体操等工夫をして実施している。	コロナ禍の影響を受けて外出機会が大きく減少しているが、天気の良い日にはドライブを兼ね、公園や桜見物、紅葉狩り、お寺に彼岸花を見に出掛けたり、大堤や田んぼに白鳥を見に行っている。また敷地の花壇を見たり、庭や事業所周辺を散歩したりと、外に出る機会を出来るだけ多く持つよう支援に努めている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あおやぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお預かりしている物でご本人様に必要なもの等確認しながら購入をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様とお話したいと希望があれば会話ができるよう設定する。また、創作時にご家族様へ向けたメッセージを書き来所したさいにお見せするなど行っている。リモート面会も実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内やホール、廊下などに四季を感じられるように写真や生花、装飾などを行っている。また利用者様と制作した飾りも活用し話題に取り入れている。日差しの入り具合や気温の調整等に配慮している。	室温はエアコンと加湿器等で快適に保たれている。毎日のラジオ体操や公文の学習療法ドリルやレクを取り入れ、脳や身体機能の維持に努めている。ホールには季節を感じさせるクリスマスやお正月の飾りつけがあり、アットホームな雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じ空間でもそれぞれの過ごし方ができるよう配慮している。気分や作業能力に合わせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や花など好みに合わせた対応を心掛けている。ご家族様から送られてきたメッセージカードや写真を居室内に飾る等、また、音楽を聴いて過ごす時間を設けたり個人に合わせた対応ができています。	居室にはベッドとクローゼット、エアコンが備付けられ、利用者は衣装ケースやテレビ、衣装ラック、家族写真などを持ち込み、壁には絵手紙や行事の写真なども飾られて、居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用される場所、導線については整理整頓に努め、安全に過ごせるように取り組んでいる。自室入り口には自身の名前の表札や写真を掲示し、トイレにも分かりやすいように看板を付けている。見えるところに掲示を行うことで場所等の認識を取って頂けるようにしている。		